iDeCoの設定をした話

今日のお話

・在宅勤務の間にiDeCo(個人向け確定拠出年金)の設定をしました。

・退職金or年金の話なので年寄り向けで面白くないかもしれませんが、早めにかけておく若者のほうが運用益は出やすいです。

年金のしくみ

- 1階: 国民年金(基礎年金)
  - 基本的に全国民20歳以降40年加入する。厚生年金は最長 70歳まで。

- 2階: 厚生年金・国民年金基金
  - 基本的に会社員は1,2階部分を給料天引きで納めている

- 3階: 確定拠出年金・厚生年金基金・企業年金・小規模企業共済・個人年金
  - 会社(制度がある場合)か任意で加入する

年金の給付額

- 国民年金を満額納めている場合 月額6万4816円(2022年度)

- 厚生年金は納付額(納付期間x給料の合計)で異なる。
  - 〈男性〉平均年金月額: 16万4742円
  - 〈女性〉平均年金月額: 10万3808円 (令和2年度・国民年金部分含む)

- これに健康保険料・税金もかかるし、将来は下がる?と言われている。。

- 見込み給付額（現条件の仮定で）は日本年金機構のサイトで計算可能

年金を増やす方法

- 長い期間納付する
  - 60歳以降も会社で働くと厚生年金の額が増える（ 70歳まで）
  - 国民年金なら学生の間の追納や任意加入で 40年間加入にできる
- 保険料をたくさん納める
  - 給料増えると増える（天引きも増えるが）・自営なら付加年金・国民年金基金にはいる
- 65歳の受給開始年齢を引き上げる（開始年齢を引き下げると額は減る）
- 国民年金・厚生年金以外の年金に入る
  - 会社員なら個人型確定拠出年金 (iDeCo) 、保険会社の年金保険、企業年金など

- [番外] 年金以外の収入を増やす(働き続ける・利殖など…）

個人型確定拠出年金(iDeCo)

- 会社員・自営業の年金納付者が60歳まで可能な制度
  - 厚生年金・国民年金の任意加入者は 65歳まで拠出可能(今年の5月から)
  - 最長75歳までは運用を続けることが可能 (今年の5月から)

- 月5000-23000円(通常の会社員)の範囲で積立して自分で年金を運用する制度
  - 口座のある証券会社・銀行ごとに決まった投資信託・ ETF(上場投資信託)・預金で運用可能

- 企業年金・厚生年金基金・企業型DCは制度のある会社の会社員しかできないが、iDeCoは会社員なら基本的に可能

メリット

- 拠出金は全額所得控除(小規模企業共済等掛金控除)
  - 控除で税金が安くなるので拠出額の所得・住民税分 (15-33%ぐらい?)減税になる
- 運用益への課税なし
  - 通常は運用利益は20.315%税金がかかる
- 受給時は退職金控除(拠出期間が長いと控除が大きくなる)か年金控除
  - 退職金制度のない会社の場合は自分退職金に

- 転職しても引き継いで加入を続けることが可能
- 運用は最長75歳まで(今年から5年延長)

デメリット

- 拠出した資金は年金なので基本60歳以上にならないと引き出せない

- 運用前提なので損をする可能性がある（預金は低利率だが元本保証）

- 口座開設、移設・拠出・運用指図・引出・還付で手数料がかかる
  - （最小）口座開設2829円・拠出(運用指図)171(66)円

- iDeCo以外の退職金や年金によって余分に税金がかかる可能性

申込方法

- 証券会社か銀行の申込書類を手に入れる
  - 手数料や運用手段を考えるとネット証券会社が色々有利。

- 申込書類を書く。（最初の申込だと会社に書いてもらう書類があるがもう1回申し込んであるのでひと手間楽）

- 2-3か月すると申込が完了するので運用方法を指定（指図）する。

- 銀行引落されると口座で運用が開始される

日々やること

- 特にない。
  - 別の投資商品に変更する・割合変更することも可能だが頻繁にやるものでもない。
  - 拠出額は変更も可能（書類いるけど）

- 日々投資信託の値動きで額が上下し、月毎に積立されるのを眺めるだけ

- 拠出中は年末調整で控除書類を書くと税金が返ってくる

運用の対象

- iDeCoで運用できる商品は多くて数十ぐらいで組合わせ可能
  - (つみたてNISA対象より少ない)

- 定期預金か投資信託かETF(一部の会社のみ)

- 投資信託・ETFは金融庁がOKした種類の銘柄のみ
  - 日経平均株価・ニューヨークダウとかの株式指数、債券、リート(不動産)、金など
  - 当然市場で上がり下がりするので自己責任で

受け取り

- 一時金（退職金）か年金（定期年金）か組み合わせで受給できる
  - 退職金控除は勤務年数で額が決まるので長期加入は有利
  - （iDeCoでは拠出年数。20年で800万[以前40万/年]以後70万/年）

- どれくらいになるかは運用結果次第。皮算用は可能だが自己責任で

- フルマークスは今のところ退職金制度はないので、じぶん退職金がよいかも（他の退職金があると同時の受給は控除が減るので税金が高くなりやすい）

おまけ

- ことしから高校生は家庭科で金融の授業がはじまるそう。

  大人も損はないので金融庁のサイトでお勉強するといいですよ

  https://www.fsa.go.jp/teach/chuukousei.html